

埼玉労山

埼玉県勤労者山岳連盟機関紙 発行:武笠真次
 〒336-0011さいたま市浦和区高砂 4-1-5 ふじビル2階 編集:青木 正
<http://www.justmystage.com/home/tozans/index.html>
<http://www.justmystage.com/home/tozan/>

安全登山講演会開催 県内外から113名参加大盛況 遭難防止安全教育会議開催

十一月二十九日(日)埼玉県労働会館(北浦和)にて午後一時三十より毎年恒例の安全登山講演会が行われました。

今年上半期より労山における相次ぐ事故に対して非常事態宣言が発令され、また7月トムラウシツアー登山遭難事故と登山界でも大きな衝撃が走り安全登山に対して関心が高まり、県内外から百十三名の出席となりました。

日本勤労者山岳連盟遭難対策部長の井芹昌二氏(埼玉労山加盟 岩つばめ在籍)を講師に迎え「労山の過去の事故から・大雪山系遭難事故を考える・これからの安全登山をめざして」をテーマにお話を頂きました。

中でも二年前の群馬県赤城山黒松山での女性単独登山遭難死亡事故では「何故、単独登山を開始したのか? 装備についてはどうだったか? 何故事故が起きてしまったのか? と身近に考えることが多くありました。また、大雪山系の事故について同時期に全員無事に下山した伊豆ハイキングクラブの行動と比較して、パーティーの結束、食料、

装備、計画等について話されました。

重大事故が発生する要素として自然環境、戦略、技術・体力、経験を通り抜ける僅かなミスが原因です。昨年登山者の年齢分布は中高年層が大半を占めています。また、ベテラン者の事故も増えています。

気象状況も著しく変化し経験豊富な登山者であっても対応できない状況に陥ることも起こっています。登山者の高齢化への課題として

加齢に伴う体力の変化(劣化)は避けられない。運動体力に比べ防衛体力の劣化は特に避けられないことを自覚し、年齢に合った山行計画が必要である。最大のポイントが歩行時間。会・クラブの課題として

- 初心者、新入会員等対象に明確なカリキュラムを作成し、質の高い学習の場を提供する。
- 計画書の目的を明確化する
- 計画段階からの遭難が多発している状況無くす。会・クラブのチェック機能を強化する。
- リーダー層の育成
- 会員の事故を想定した

シミュレーションを実施し、会員の遭難防止意識の高揚を図る。登山技術の向上への課題として

- 山行(形態・志向)に合った教育が不可欠である
- 基礎教育の標準化: 指導者によつての教育のバラつきをなくす
- 技術習得の最大効果は反復学習

今後の安全登山について重要な課題を提言されて講義を終了しました。

講義終了後質問の中では雨具や、衣服の問題や携帯電話の携行等も話題になり、大盛況の中、午後四時三十分には講演会は終了しました。懇親会でも多くの方が参加され遅くまで話が尽きませんでした。



(公演される井芹氏)

第九回 遭難防止・安全教育担当者会議報告

日時 十一月二十九日

(日) 九時三十分~十二時

場所 労働会館二階講堂
 出席者 理事十三名、委員十六団体二十八名、他参加二名(神奈川・群馬)

会議内容

議題1 大雪山系トムラウシ・美瑛岳遭難事故について(県連の事故と想定しての考察)

武笠理事長から七月十六日に発生したツアー会社企画のトムラウシ登山について、当時の気象状況、避難小屋出発までの状況から遭難までの時間経緯ごとの参加者およびガイドの行動等の説明があり、また佐藤副理事長からは同時期・同コースにおける登山体験談の説明があつた。このコースの大半は森林限界を超えた尾根歩きで、風雨の影響をまともに受けやすいとのこと。

遭難日は前日までの濡れと疲労の中、強い雨と風の中の避難小屋出発であつたと生存者は証言しているとのこと。

以上の説明を受けた後、出席者を五班に分け自分たちが同コース登山をするとし

たならばパーティーとしてどのような準備と行動をするのかについて討論し、各班が発表した。

発表の内容は避難小屋を頼りにすることなくテントを必ず持参する。そのためには十五kg以上の荷物で六時間以上歩けるように事前のトレーニングをしておく。また計画から山行迄に4ヶ月程度の準備期間が必要。気象情報を必ずとること。状況により停滞を判断すること。そのため予備日をとつておく等々の発表があつた。その他今回のツアー登山の感想も発表された。時間の関係から質疑・応答は出来なかつた。

【班毎の話し合いの内容】
 1班
 ・三泊四日予備日一日で計画が妥当

・テント泊が基本、テントは二張り(四、五人用一張、三、四人用一張)
 十五kgを背負つて六時間歩ける体力がある人が条件
 山行前のトレーニングが必要

食料計画
 装備の中で無線機、ラジオは必要

一面より続く

- ・一日目は雨でもロープウェイだから歩ける。
- ・ヒサゴ沼でどうするか？
- ・ミーテングを行い、その中で停滞か出発を判断する。
- ・リーダーの判断に従う2班
- ・小屋に停滞する。
- ・事前に北海道の地形を調べる。
- ・気象状態を調べた上で決行する。(長期の天候山行日を決める)
- ・個人装備の質を見る。
- ・普段の仲間の力量を見て参加を断る事もある。
- ・当日の天候で仲間の疲労度を見て撤退する。
- ・ガイドは現地のガイドを頼みたい。
- ・私はツアー登山をした事がない。
- ・リーダーの問題点 途中で引き返す勇気が必要(パーティーの場合はどうしても戻ることができない。)
- ・装備は前日からツアーガイド会社の打合せが重要ではなかったか
- ・リーダーの判断はヒサゴ沼避難小屋を出発する時点で体調不良の人がいたことから本来は出発すべきでなかった。
- ・ツアー登山として会社の

体質が大きく影響すると思うので組織から問わねばならないと思います。

- ・リーダーは悪天候の為、登山行動を中止すべきであった(ツアー登山の限界)
- ・装備は一応持つているが両具とか防寒着とかの替え熟度が不足している。
- ・リーダー(＝ガイド)に問題がある。リーダー間のチームワークが悪い。
- ・リーダーとして避難小屋出発時点で天候状況としてツアーリーダーは出発したくない状況であったのではないか、しかし計画から出発をせざるを得ない状況ではなかったか？

3班

発言の要点 ツアーリーダーと参加者(客)双方に、登山の基本知識が不足していたこと、それが大量遭難に結びついた。

チーフリーダーは、「天気予報では午後には天気が回復する」との理由で風雨の中出発を強行した。仮に天気予報が当たっても、それは出発五時三十分から七時間後だ。午後から晴れるは、危険を意味し安全の保障では無い。本当の理由は、この会社の後続パーティが当日十五名この小屋に到着す

るので、このパーティが出るので、このパーティが出発しないと後続パーティが泊るところが無い。そのため出発したと思われる。この会社の計画そのものが事故発生要因だった。

4班

準備段階：最低三カ月又は半年は必要

予備日を必ずとる・・・パーティ全部の共通の認識として重要

体力、脚力をつける為、訓練山行をする。形態をかけたりしながら。お互いのコミュニケーションも必要。

参加メンバーの体力、精神的なことも均等が望ましい。天候の把握・悪天候の場合、途中引き返す余裕も必要、

リーダーとサブリーダーの話し合い、次にメンバーと話し合い。

装備の点検、最低限のものは絶対。

5班

当班では、トムラウシ事故報告を受けて、それに対する意見を収集し、方向性を見出すこととした。

参加者より出された意見

- ・天候不順時の行動はしないことが必要
- ・装備が重要
- ・日程が厳しかったのでは、予備日は必要

・ツアーリーダーの経験不足ではないか。

・参加者の自己認識不足により安易な参加

・参加者の意見をまとめることが重要。

意見より総括した班としての意見

- ・メンバーが一人でも動けなければ停滞、即救助要請が原則
- ・装備は日々進歩している。これまでの知識、経験のみに頼るのではなく、情報収集が必要。
- ・パーティとしてのルールが必要。

ツアー登山参加のうち四割は参加者自身に責任あると認識すべき。

- ・ツアー登山参加者は、ツアーそのものを見極めることが重要。
- ・悪天候で参加者からの救助要請にリーダーが要請しなかったのは何故？
- ・参加者の自己認識不足により安易な参加
- ・参加者の意見をまとめることが重要。

るわけではなく、会員を対象とした救助をするための組織であり、手弁当のボランティアである。たまたま登山会員の知人が行方不明となり、会員から救助・捜索の相談事例があったことから、どのように対応すべきか考えた時、山の仲間が困っているのであれば出来ることは協力したいと考えている。

そのためには救助隊の出動規定の変更(追加)が必要であることから、出動するための追加規定について説明があった。それに対する質問、要望もあつたが細部については理事会等で協議し決定される事となった。

議題3 ヒヤリ・ハット事例報告

所沢ハイキングクラブおよび大宮登山からヒヤリ・ハットの事例報告がされた。両会とも安全登山について例会などで話し合われており、ヒヤリ・ハットを広く捉え山行では度々起こりうる転倒等もヒヤリ・ハット事例として話し合っているとのことである。

今回報告された事例では、足を置いた下の砂利状の石に足を取られ転倒し、すぐ下の岩の上にザックを下

に一回転して止まった。

- ・下山中、梯子の上で登りの登山者を待つている間に上からこぶし大の落石がありメンバーの間をすり抜けていった。
- ・丸太を渡ろうとして足が引掛かり転倒した。
- ・沢登りで前人はロープ確保、その後の登攀者がスリッパして滑落した。
- ・十月の山行で、みぞれから雪に変わりヤブコギ下山中、低温と濡れで初期の凍傷となった。(指が白くなり痛みを感じた)等々であり、会での話し合いの内容、対策等大変参考になる内容であった。

武笠理事長から人間はエラーを完全に防ぐことはできずヒューマンエラーの可能性を持ち合わせているものである。一つの重大事故の陰には二十九の小さな事故そして三百のヒヤリ・ハットの危険が潜んでいる。大きな事故を防ぐために各会でヒヤリ・ハット事例を話し合い、その結果を県連に提出していただきたいと要請があつた。ヒヤリ・ハット様式は県連ホームページから取り出せます。

上福岡山なみHC
古畑秋夫記



登山学校 第6回 天気の見方

期日 十一月八日(日)

場所 群馬県 赤城山・鈴

ヶ岳(一五六五m)

参加者 運営委員十一名

受講者十八名 計二十九名

行程 北浦和9:30(バ

ス)・7:00柳瀬川7:10(

(バス)・9:20新坂平・

登山口9:50・10:10見晴

台・10:30 鋏柄峠・10:50

鋏柄山・11:20 十字路

・12:00 鈴ヶ岳 12:...

30・13:00 十字路・13:30

鋏柄山・14:00 姥子峠

・14:25 登山口 15:00・

(バス)・柳瀬川・北浦和

ここ赤城山は日本百名山と

して名が知られているが赤

城山という名の山はなく主

峰の黒檜山をはじめとして

駒ヶ岳、長七郎山、荒山、

地藏岳、鍋割山、鈴ヶ岳な

どの総称が赤城山と呼んで

いる。

北関東の山域はその大部

分が太平洋型気候区の開東

型気候区に属していて、赤

城山では冬の寒さが厳しく

夏でも通常の高度による温度変化(高度100mごとに0.6度下がる)が0.7度となることも報告されている。

前日の机上で観天望気による山で見る雲の形を今日は実際に山へ登って山岳の天気を講師による説明で学んだ。

高層雲、巻層雲等十種類あるというが、今日の雲の移り変わりで講師の話では層雲から積雲に変わると雨模様になるということでした

が晴れてきた? 太陽が出てきたりいろいろな雲の形が見れて大変勉強になったと思う。

しかし、天気の見方の講座ではどこまで追求して初級者の皆さんに教えていけばいいのか、運営委員としても課題の残る山行でした。

今期初めてバスを使った講座だったが、受講者、運営委員の協力で楽しい講座となった。

【理解することが難しくかった受講者の皆さんへ】

普段から天気図、雲の様子に気をつけて関心を持つて気象遭難が少なくなるよう安全に山に登っていただければ他の人よりは少しは役に立つのではないかと思

います。

日常生活で「天気」に触れよう。テレビ、新聞等の「天気予報」をよく見、よく聞いて言葉になれること。特に天気図、雲の様子を見ながら解説を聞くことが大事だと思います。

はじめの一步です。これから山へ行くのに天気予報は非常に大事な情報源ですから!

(登山学校運営委員 尾手記)

十一月七日(机)八日(実技) 『天気の見方』

さいたま市 友光 ミチ子 天気の見方の講師は高橋五男先生です。今回はバス

で赤城山にある鈴ヶ岳に行きました。登山道の入り口には数日前に降った雪が残っていました。山の天気

ですが、今年の七月十六日の北海道トムラウシ山の夏山遭難はともシヨックでした。私は夏山でどうして

低体温症で亡くなるのだからと思いましたが、それはやはり天気だったのですね。

いろいろな所で『天候さえ良かつたら・・・』と書いてありました。山の天気は変わりやすいといわれます。

悪天候になった時は行動を中止するか続行するかの判断が難しい事と思います。

今回の講座では北半球、日本付近は気流が偏西風である事、高度と気圧と酸素量は高度が上がると大気中の酸素量が少なくなり酸素量も少なくなり六千m以上登る時は訓練が必要だと納得しました。

『コリオリの力』は少し難しかったです。それから気温は高度が千m上がるとおよそ6度低くなる事も学びました。風が強い時ほど体感温度が下がるそうです。

次に私が楽しみにしていた『雲』です。こんなにいろいろの雲がある事を知りました。雲の種類は上層雲、中層雲、下層雲、対流雲と雲の名前の由来や雲の雲量

などに雲は見ていたつもりでしたが、これからはもっとテキストを見て雲の事を勉強したいと思えます。登山学校では山行に必要な事を

沢山教えて頂きました。自信が過信にならないよう、天気を見たり、計画をしっかり立てて迷惑をかけないようになりたいと思えます。

講師の皆さん本当にありがとうございました。これからも宜しくお願いします。



第四回岩ネット報告

(担当理事 尾手記)

平成二十一年十一月一日

(日) 天候 晴れ

於：神奈川県・丹沢・広沢

寺ゲレンデ

三郷山の会 一名 浦和山の会 二名 新座山の会 一名 所沢ハイキングクラブ二名、計六名で行いました。

岩ネットでは初めての丹沢・広沢寺ゲレンデでの岩登りトレーニングです。

ここ広沢寺の岩場は広沢寺温泉の駐車場から大沢川沿いの林道を歩いていくと右側にスケール十分の弁天岩の大スラブが現れます。

初心者のトレーニング、特に基本的なフットワークを習得するには格好の場所であるとガイドブックに書かれています。

現地に到着するとすでに先客のパーティーがロープを張ってトレーニングに励んでいた。

まず弁天岩の右側にロープを垂らし、スラブでの

登りは小川山でのガマスラブ以来なのでこずった。左スラブ(5.8)、左凹角ルート(5.8)でのクライミング、ここでは五〇mのクライミングと高度感を満喫して久々の感激を味あう!

左凹角ルートでの格闘で手がパンパンになりそのあとはメロメロになり持病の右足が痛くなりあえなく敗退でした。

ここはマルチピッチの雰囲気も楽しめる良いゲレンデなので又機会があれば来たいと思います

第2回埼玉労山県連評議会のお知らせ

場所：埼玉県労働会館(北浦和)

日時：2010年1月31日(日)

受付13:00 開始 13:30~

各会評議員の出席をお願いします。

尚、欠席の場合は委任状の提出をお願いします。

理事会報告

十一月二十五日(水)浦和・県連事務所にて十二名の出席で第八回理事会を行いました。

委員会等活動経過報告・計画予定

【全国連盟活動】武笠

・十月三十一日～十一月一日 第九回全国救助隊交流集会・関東ブロック自然保護集会

・十二月四日 望年会(市ヶ谷) 三役三名参加予定

・十二月十日 役員選考会議(全国連盟事務所)・三役三名参加予定

【県連全体活動】&事務局木阪

・十一月五日 三役会議

【議題】

・遭難防止・安全教育担当者会議の参加要請文について

・規約改正原案作成

・一月評議会について

・二〇一〇年カレンダー注文集計二〇〇部完売

・十月末現在の組織数調査について

・安全登山講演会と遭難防止について

【財政】廣岡

・県連盟費未納団体一件あり

り・・・次の日に連絡を受けて十一月二十六日完了

【機関紙】青木

・百五十二号発送済み

【組織】矢崎 高橋

【ホームページ】木阪

・新座山の会掲載写真更新

新

・上福岡やまなみハイキングクラブ紹介掲載

・第十七回関東ブロック「雪崩事故を防ぐ為の講習会」ご案内掲載

・飯能労山の紹介文がきています

【女性】長谷川 嶋田

・十一月十六日委員会開催

・次回十二月十四日

・一月二十三日～二十四日 日東日本女性集会 定員で締め切り

・三月六日(土) 応急手当の講習会(労働会館) 講師は選定中

【自然保護】加納 澤藤

・十月三十一日～十一月一日 関東ブロック自然保護集会(山梨県南アルプス市)

・乾徳山のゴミが多いの

・十一月十四日～十五日 全

・国自然保護担当者会議

【海外】木村

・三郷山の会(ネパール)

・より一件の計画書あり

・十一月二十八日～二十九日 第二十一回全国海外登山集会

【遭難防止・安全教育】徳

・若木 長谷川 尾手

・議題にて論議

【救助隊】若木 長谷川 尾手

・十一月九日 役員会

・十一月十五日 岩場の搬出訓練(女ヶ岩)

・関東ブロック深雪搬出訓練 交流会の日程変更

・二月二十一日が二

・十七日～二十八日に変更、

・それに伴う県連理事の

・参加を要請及び二月七日の細部詳細を土合山の

【登山学校】佐藤 尾手

・天気の見方：十一月七日机上受講者十六名、

・運営委員十二名、計二十八名参加 十八日実技(赤城山・鈴ヶ岳)

・受講者十八名、運営委員十一名、計二十九名参加

・総合登山 十二月五日、

・六日、歙柄岳、荒船山

【岩ネット】尾手

・十一月一日 丹沢・広

・沢寺(神奈川)四団体

・(浦和山の会、新座山の会、所沢ハイキング

・クラブ、三郷山の会)

・六名参加

・十二月二十日 幕岩

中止

【山スキーネット】木村

【登山ゼミナール研究】徳

・第三回雪山ゼミナール募集をホームページに掲載

【ブロック協議会報告】

・西部 十一月十五日 交流

・流ハイク(丸山)八十名参加

・南部 十月二十五日

・交流ハイク(古賀志山)二十八名参加

・中部 十一月十五日

・読山行(奥多摩)

【加盟団体活動情報】

【議題】

一、安全登山講演会について【武笠】

・日程：十一月二十九日(日)

・受付：十三時

・開演十三時三十分

・会場：労働会館 二階講堂(百八十名収容)

・講師：井芹全国連盟遭難対策部長

・演題：

・ 登山過去の事故から

・ 大雪山系遭難事故を考

・ える

・ これからの安全登山を

・ めざして

・ 参加費：@五百円

・ 百十名参加予定

【役割分担】司会：木阪

・ 会計：受付：廣岡・長谷川・

・ 佐藤

・ 会場準備：理事全員

・ その他：欠席理事(木村・

・ 嶋田)

・ 会場での機器借用確認

・ 二、遭難・防止安全教育担

・ 当者会議について【若木】

・ 日程：十一月二十九日(日)

・ 受付：九時、

・ 開始：九時三〇分、

・ 会場：労働会館

・ 議題：

・ 大雪山系トムラウシ・

・ 美瑛岳遭難事故につい

・ て(担当：武笠・佐藤)

・ 県連会員以外の遭難救

・ 助要請について(担

・ 当：徳重)

・ ヒヤリハット事例報告

・ (事例報告は行わない

・ が、今後の必要性を呼

・ び掛ける)

【役割分担】司会：若木

・ 会計：受付：長谷川・廣岡

・ 会場準備：理事全員

・ その他：交通費は各会一名

・ 欠席理事：木村・嶋田)

・ 県連会員以外の遭難救助

・ 要請について【武笠・徳重】

・ 警察・消防等の捜索終了

・ 後、捜索依頼があった場合の

・ 対応

・ 神奈川県連、群馬県連よ

・ り参加あり

三、第二回評議会について

・ 一月三十一日(日) 十三時

・ 受付 十三時三十分開始

・ 場所：埼玉県労働会館・北

・ 浦和

・ 四、その他

・ 県連規約改正 【武笠】

・ 三役互選

(尾手理事記)

【編集後記】

11月15日(日)3年ぶりに開催された西部ブロック交流山行は前日までの

雨も上がり朝から快晴。奥武蔵丸山デイキャンプ場で鍋交流として行われ、各会の山行で

良く作られる鍋物を食べ比べして交流が行なわれました。

果樹公園から山道に入る頃には武甲山が大きく見えます。霧のかかった景色はまるでアル

プスの朝のように綺麗に見え感動しました。

はっと汁、芋鍋、石狩鍋、すいとん、キムチ鍋、お汁粉等が披露されました。

最後に交流会で山の歌を合唱し、会の紹介をして閉会になりました。暖かい日曜で紅葉も

楽しむことができ、交流会には8団体74名の参加があり大盛況でした。

新年154号は原稿締め切り12月27日、印刷発送は1月12日(火)です。ヨロシク(アオ)